

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23530728

研究課題名(和文)多職種協働に有用な高齢者福祉実践の向上を促進する「生活支援記録法」の開発と検証

研究課題名(英文)Development and verification of Life Support Recording that promotes social care practice for the aged and that is useful to interprofessional work

研究代表者

島末 憲子 (SHIMASUE, NORIKO)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：80325993

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は生活モデルやICFの潮流の中で、M-GTAにより理論化した生活場面面接(利用者の日常生活場面において、援助目標に沿い利用者の多様な側面と必要に応じて環境を活用した意図的なコミュニケーション、面接)等の教材を用い、高齢者入所施設職員や居宅のケアマネジャーを対象とし、介入研究(研修)により生活支援記録法を開発しその有効性を検証した。

その結果、生活支援記録法が多職種協働実践に必要とされる観察・支援の根拠、利用者とその環境や相互作用、生活変化、ケアプランへの反映等、多職種に明示可能な経過記録法であると定義づけられ、利用者への援助効果、職員の専門性向上や労働環境改善等多様な好循環が確認された。

研究成果の概要(英文)：In this study we used the teaching materials such as "Life Situation Interview" that are defined as "the intentional communication in daily real life situation of the client that utilizing the various sides of the client and their environment along support target" that we theorized by M-GTA in a tide such as life model and ICF.

As a result, we developed the "Life Support Recording Methods" by the intervention study (the training) for nursing home staffs and care managers, and we inspected the effectiveness. "The life support record Method" was defined as the method that could exhibit grounds of observation and support, a person-environment interaction, a life change, reflection to care plan needed in interprofessional working.

研究分野：介護福祉 多職種協働

キーワード：生活支援記録 生活場面面接 多職種協働 IPW ICF 生活モデル ソーシャルケア 経過記録

1. 研究開始当初の背景

IPE(Interprofessional Education)やIPW (Interprofessional Work)が重視される中、生活支援の専門職であるソーシャルケア(ケアワーカーとソーシャルワーカー)の専門職や、ヘルスケア専門職との協働においても、ICFを共通基盤とし、共有できる記録法が求められていた。

筆者等は、科学研究費により困難事例におけるソーシャルワークとケアワークの協働・専門性向上、生活場面面接研究等に携わる中で、本研究テーマに至る主な課題として、ソーシャルケア専門職による生活場面での情報把握の優位性、包括的アセスメントやモニタリングと連動した記録技法の必要性、多職種共有記録としての生活支援記録の必要性、などを指摘していた。また、介護福祉士のファーストステップ研修といった職能団体などにおけるコミュニケーション・観察・記録の現任者研修を通じて、既に「生活支援記録法」の考え方を提示していた。

2. 研究の目的

本研究は、利用者の生活を把握でき相互作用が強いケアワーカーや、生活環境の調整を担うソーシャルワーカー等が、アセスメントや生活場面面接の能力を有した場合、その実践向上を促進する「生活支援記録法」を開発することを目的としている。そして、研修後の試行結果の検証を経て、本記録法がソーシャルケア専門職間の協働と共に、多職種協働にも有用であることを示す。なお、本研究における「生活支援記録法」の定義と特徴については、これまでの研究成果から、次のように設定した。

<生活支援記録法の定義>

多職種協働による利用者のチームケアにおいて、生活支援を専門とするソーシャルワーカーやケアマネジャー、ケアワーカーによる観察、支援の根拠、利用者とその環境(家族、集団、地域及び専門職)との相互作用(働き

かけと反応)、利用者の生活変化、これらを基にしたケアプラン反映への根拠等を他職種に明示可能な経過記録の方法である。

<生活支援記録法の特徴>

- ・保健医療や福祉分野の記録法をもとに、ソーシャルワークやケアワークの諸理論をふまえた折衷的な記録法であり、多職種での活用が可能である。
- ・様々なアセスメントツールに適用可能なため、モニタリングやケアプランの変更に有効である。
- ・ストレングス視点や利用者視点から観察・気づき・コミュニケーション(生活場面面接)に着目した記録が容易なため、単独やチームでのリフレクション等、OJTの教材としても有用である。
- ・長期間変化の見られない日常支援に意義・やりがいを見出せる等、実践の質向上に有効である。
- ・労働環境、ケアワーカーやソーシャルワーカー等の力量に合わせ、段階的な導入が可能である。

3. 研究の方法

(1)2011年度

フィールドでの介入研究としては、特別養護老人ホームおよび居宅介護支援事業所(約20名)において、段階的な研修を各々2回試行し検証方法を検討した。施設では当初の計画では一部を想定していたが、コミュニケーションや記録は全職員(約30名)に関わるため、先方の希望により、研修や自記式質問紙調査は全職員を対象として実施した。

質問紙調査は、科学研究費による生活場面面接研究の成果を基に設計し、比較群にも依頼した。

(2)2012年度

前年度の方法を修正後、継続して生活支援、生活場面面接、多職種協働、ICFに関する理論化と教材開発を継続した。協力先にて「生活場面面接ワークシート」や「生活支援記録

法」の場面を素材として、記入時の困難さや記載後の変化・効果（ケアプランとの関連など）をリフレクションしてもらった。また、中心的な協力者へのインタビューにより、定義や特徴について検証した。

具体的には、効果的な事例や場面について確認後、従来の記録法で十分な場合について整理し、本記録法の効果的活用例を提案した。また、上記のプロセスを経た上で、協力者からフィードバックを受け、分かりやすい教材を再検討した。

なお、自記式質問紙調査項目に、記録や労働環境等の項目を追加して実施した。

(3)2013 年度

施設および居宅介護支援事業所において、フォローアップのための研修を継続し、生活支援記録法の場면을基に、活用時の留意点を取りまとめた。また、本記録法試行による変化や、モニタリングへの対応・気づき等の専門性、やりがい等について、研修時の記録・観察、中心的協力者によるインタビューデータを得た。

(4)2014 年度

本記録法を継続活用し効果が高い実践者に対して、記録を確認しながらリフレクションを行い、生活支援記録法による効果を中心に質的に分析した。これらのデータの内、その特性について、両協力先の実践者による生活支援記録、及びそのリフレクション、質問紙調査（研修（計 13 回時の参与観察結果））を分析し、以下のような成果を得た。

4. 研究成果

(1)研修のための教材・マニュアル作成・改訂

具体的な研究成果としては、「生活支援記録法」のあり方について整理し、研修のための次のような教材やマニュアルを作成した。施設と居宅における事例や場面についての分析結果を統合することにより、教材やマニュアルを改訂し共通化した。また、両協力先での対象を全職員としたことにより、生活支援

記録法を導入・普及すべく段階的に活用できる教材に改訂した。さらに提示する教材の順序などについても確認できた。

<IPWや基盤となる理論に関する教材>

ICFと生活ニーズ

IPWの構造と要素

介護実践構造図（ICF版を含む）

ICFの特徴と介護への活用・介護職の役割

介護過程～生活場面でのアセスメント・モニタリング～

生活場面での意図的・段階的な展開場面

<生活場面面接に関する教材>

生活場面面接による実践の記録化には、本記録法が求められることを前提としている。

M-GTA（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）により解明した「利用者の持てる力を高める」プロセス（全体）

「利用者の持てる力を高める」生活場面面接の骨格図

「生活場面面接ワークシート」

生活場面面接の技法リスト

<生活支援記録法に関する教材>

生活支援記録法の特徴・書き方

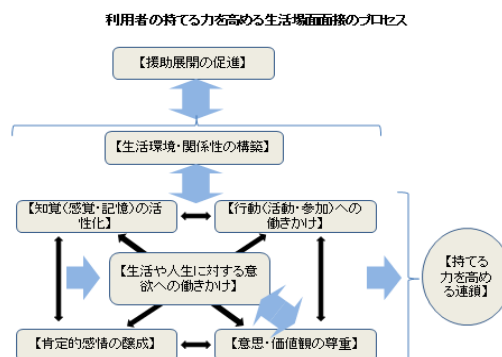
生活支援記録法の典型場面

生活支援記録法の留意点


実践課題（全体）と記録の関連

生活支援記録法による好循環

<「利用者の持てる力を高める」生活場面面接の骨格図>



<生活場面面接ワークシート>

周囲の状況	利用者の言動	援助者の思い	援助者の言動	意味づけ
ICF：状況・環境	ストレングス： 利用者中心・ニーズ	アセスメント： 気づき・判断 ※ケアしながらのリ フレクション	LSIの実践 ICF：相互作用 生活支援 	実践後の リフレクション

(2)介入研修による変化

生活支援記録法導入までのプロセス

本記録法の理解には、ICFや協働実践に関する知見との関連づけが不可欠であるが、それを実感できる教材のあり方が重要であることが把握された。また、本記録法の導入には、生活場面面接の意図的な活用が条件となることが確認された。とくに、施設では生活場面面接ワークシートによるロールプレイにより、生活支援記録法の定義が示すような特徴を意識した、要約記録が多くなり、実践現場の課題も含め多様な効果が示された。

生活支援記録法導入の効果・変容プロセス

介護現場における効果的な事例・場面の検討等を通じ、「生活支援記録法」の意図的活用には一定の時間を要することが確認された。「生活支援記録法」のための研修段階では、利用者（効果・変化）や、ケアワーカー等の専門性向上ややりがいととも、モニタリングやケアプランとの連動性、さらには多職種協働等の点で意義を抽出できた。

また、協力者が本記録法を活用するモチベーションを高めるには、M-GTAや注目されているルーブリック法ではなく、KJ法による全体像や多職種協働・実践向上を促進する変化を軸に段階を示すことが望まれた。

施設では労働環境全体に好循環をもたらす可能性があること、在宅では医療と介護の改革に求められるケアマネジャーの専門性に寄与できる可能性があることが、示唆された。

(3)生活支援記録法の定義・特性の検証

前述の介入研修による変化と次の成果より、本記録法の定義・特徴を検証できた。

本記録法の場面分析

本記録法の場面が多く得られた居宅での研修（171 場面）と中心的協力者が担当利用者全員に試行（218 場面）した計 389 場面を分析した結果、ケアマネジャーの困難場面での効果的活用など典型場面であることが把握された。なお、施設での試行結果については、中心的協力者である宮崎則男氏が発表した。

自記式質問紙調査の自由記述およびリフレクションデータの分析

質問紙調査の自由記述やリフレクションデータ等からは、現場に即した柔軟な研修法の有効性と本記録法導入の効果が示唆された。後者については、支援への効果としては、何気ない関わりも面接の一環として意識化と記録化ができる、ケアプランや援助目標の見直しに連動させることができる、利用者の生活環境、人間関係、まわりの出来事の整理できる、)利用者自身や生活上の変化、利用者の言動からニーズを把握できる、利用者の強みをもとに援助の根拠を明確にできる、記録をもとにしたリフレクションにより利用者の変化を予測した対応に繋げることができる、利用者に対する他職員の対応が分かりやすい、Pにより次回のケアの工夫やプラン変更に繋げることができる、といったことが明らかになった。

また、その他として、記録の効率性や他職員との情報の共有に有用であることも示唆された。

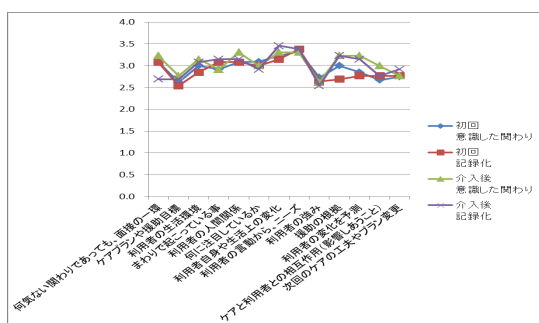
自記式質問紙調査の分析

居宅介護支援事業所より31票、特別養護老人ホームより42票が回収された。このうち「意図的関わりと働きかけと記録化の変化」項目については、研修に参加し2回分の回答があった13票について分析した。

なお、両項目の Cronbach のアルファ係数については、全回答者を対象（2項目を2回分）としたデータにて算出し、初回は0.887、0.905、第2回目は0.954、0.96と、高い一貫性が示され項目内容の一定の信頼性が支持

された。

<意図的関わりと記録化の変化> (N=13)



13項目については、変化の観点からは漸増であった。「ケアプランや援助目標」や「利用者の強み」は低く推移したが、「記録化」の項目については、「援助の根拠」や「利用者の変化を予測」は高くなっていった。

(4)研究成果の公表

研究成果の公表では、施設での中心的研究協力者が専門雑誌にて報告した他は、本稿に付したように、本記録法の理論として重要な生活場面面接の学術書や教材の刊行等とともに、ホームページ等からも成果を発信した。本記録法の普及には、研修をせずとも理解できる教材作成が必要となるため、本研究の過程で得られた協力者との質疑応答なども教材に反映させていきたい。本研究成果をもとに記録の専門雑誌への連載や書籍の発行が決定している。

(5)今後の課題および展開

質問紙調査の項目については、今回の質的データ分析結果をふまえ、改訂した上で、次回は連結可能匿名化による自記式質問紙調査を予定している。

5. 主な発表論文等

【雑誌論文】(計8件)

Shogo Kojima, Noriko Shimasue

Study on the Training Program for “life Space Interview”(1): Outcomes from the training program to multidisciplinary professionals (査読有), Proceedings of 21st Asia-Pacific Social Work Conference, 644-653, 2012

Noriko Shimasue, Shogo Kojima

Study on the Training Program for “life Space Interview”(2): The Trial to Care Management with Care Experiences (査読有), Proceedings of 21st Asia-Pacific Social Work Conference, 654-662, 2012

畠末憲子, 小嶋章吾, M-GTA を用いた生活場面面接研究の結果と応用例 (査読無), M-GTA 研究会 News Letter No.60, 24-30, 2012

畠末憲子, 小嶋章吾, 生活場面面接を学ぶ (連載第1回) 生活支援の基盤としての生活場面面接～利用者の持てる力を高め、介護のやりがいを生む～ (査読無), ホームヘルパー, 443, 10-13, 2013

畠末憲子, 小嶋章吾, 生活場面面接を学ぶ (連載第2回) 生活場面面接の意図的な実践活用～利用者の持てる力を高める連鎖を目指して～ (査読無), ホームヘルパー, 444, 2013, 9-15

小嶋章吾, 畠末憲子, 生活場面面接を学ぶ (最終回) 多様な効果をもたらす生活場面面接を意図的に活用するために～「生活場面面接ワークシート」の作成と演習の方法～ (査読無), ホームヘルパー, 445, 2013, 8-11

小嶋章吾, 論壇 介護福祉学の構築に向けて-ケアワークにおけるソーシャルワークの不可欠性- (査読無), 介護福祉学, 21(1), 2014, 70-76

小嶋章吾, 生活場面面接における観察と記録の方法 (査読無), ソーシャルワーク研究, 41(1), 2015, 25-33

【学会発表】(計12件)

Shogo Kojima, Noriko Shimasue, Study on the Training Program for “life Space Interview”(1): Outcomes from the training program to multidisciplinary professionals, 21st Asia-Pacific Social Work Conference, 2011.7.16, Waseda

University

Noriko Shimasue, Shogo Kojima, Study on the Training Program for “life Space Interview”(2): The Trial to Care Management with Care Experiences, 21st Asia-Pacific Social Work Conference, 2011.7.16, Waseda University

Shimasue Noriko, Shogo Kojima, A Study on Life Model : Approach in ICF & IPW -Roles of Care Worker that is focusing on User-oriented life-, The 6th International Conference for Interprofessional Education and Collaborative Practice, 2012. 10. 6- 2012. 10. 7, Kobe Gakuin University

Shogo Kojima, Shimasue Noriko, A Study on Life Model : Approach in ICF & IPW -Effectiveness of the Life Situation Interview (LSI) Used by Care Workers and Other Professionals-The 6th International Conference for Interprofessional Education and Collaborative Practice, 2012. 10. 6-2012. 10. 7, Kobe Gakuin University

宮崎則男、鳶末憲子、小嶋章吾、特別養護老人ホームにおける生活場面面接の研修についての検討 - 新潟県介護福祉士会におけるファーストステップ研修プログラムをもとに -、19回社団法人日本介護福祉士会全国大会 in やまなし、2012年12月08日、甲府富士屋ホテル

【図書】(計10件)

鳶末憲子、小嶋章吾他、介護職員関係養成研究テキスト作成委員会編、長寿社会開発センター、コミュニケーション技術(介護職員実務者研修テキスト 第4巻)、38(77-114)、2012

鳶末憲子他、井上千津子・上之園佳子・田中由紀子・尾台康子編著、第一法規、介護福祉総論(新 大学社会福祉・介護福祉講座)

10(130-139)、2012

鳶末憲子他、介護職員関係養成研修テキスト作成委員会編、長寿社会開発センター人間と社会・介護2(介護職員初任者研修テキスト 第2巻)、16(5-20)、8(82-89)、2012
鳶末憲子、小嶋章吾、日本労働者協同組合連合会・日本高齢者生活協同組合連合会、介護・福祉の制度とコミュニケーション(介護職員初任者研修テキスト 第2巻)、介護におけるコミュニケーション技術、245(161-190、213-240)、2013

鳶末憲子、小嶋章吾、峯尾武巳、高瀬敏幸、吉川悠貴、鈴木真理子、長寿社会開発センター、コミュニケーション技術 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 第3巻、164(7-16、23-24、31-34、47-52、66-85)、2013

鳶末憲子、中田弘子、鎌田ケイ子、瀬戸真弓、長寿社会開発センター、生活支援技術・介護福祉士養成 実務者研修テキスト 第4巻、164(11-37)、2013

鳶末憲子、国際厚生事業団、介護導入研修テキスト、ICFと介護過程、コミュニケーション技術、28-39、80-101、2014

小嶋章吾、全国社会福祉協議会、社会福祉援助技術論(社会福祉学習双書2015)、記録・IT活用、163-178、2014

小嶋章吾、鳶末憲子、ハーベスト社、M-GTAによる生活場面面接研究の応用～実践・研究・教育をつなぐ理論～(査読有)、全176頁、2015

【その他】ホームページ等

日本ソーシャルケア研究所
<http://socialcarejapan.net/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

鳶末 憲子 (SHIMASUE, Noriko)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授
研究者番号：80325993

(2)研究分担者

小嶋 章吾 (KOJIMA, Shogo)
国際医療福祉大学・医療福祉学部・教授
研究者番号：90317644